

対象地

三角西港および周辺地域

所在地 : 熊本県宇城市三角町三角浦
(旧宇土郡三角町)

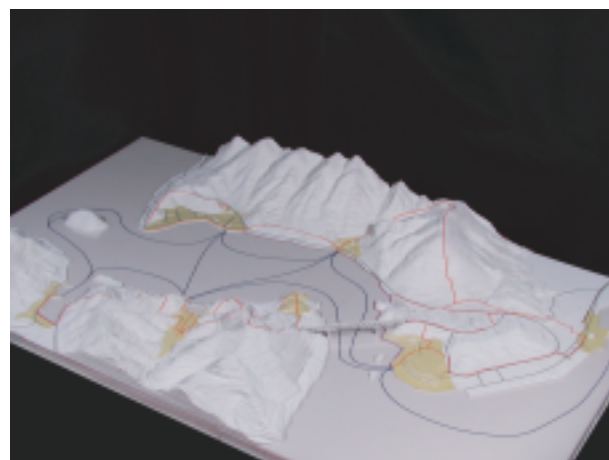
築港開始 : 明治16年



概要

西港に浮き棧橋を造ろうとする計画がありました。その動きに対して、よりよいデザインを提案しようというところからプロジェクトは出発します。しかし、現地調査の結果、浮き棧橋だけでなく西港全体をさらに良くすることはできないかという議論となりました。そして西港の良い点・悪い点・今後考えていくべき点・景観的な魅力について調査・整理を行い、周辺地域を含めた対象地周辺に対するマスタープランを作成することとしました。

現地調査の結果、単に浮き棧橋のデザインをするのではなく、三角西港周辺の地域全体を空間として良いものに出来ないかという考えに至りました。西港が最も美しく見える場所(=特異点)を探索し、西港の良い点・悪い点・今後考えていくべき点・景観的な良さを調査しました。そして西港をもっと素敵にできるアイデアを調査・議論。他の浮き棧橋や観光地など様々な事例を調査し、西港デザインの参考とする。さらに九州にある代表的な7港を調査し、西港と同スケールで比較。類似点・相違点などを挙げ、港の役割を議論しました。そこで、三角西港は一つの大拠点をして整備するにはエリアの広さが不十分であること、また西港の有する歴史性に注目すると、大々的な整備が難しいことが分かりました。また周辺地形を含めた模型を作成することで、一体の地形の面白さにも気付くこととなりました。その後はその空間的な面白さも活かすためにより広域的視点が必要となり、「海班」・「街班」・「山班」の3つに別れ、調査および整備の可能性を探る作業を行いました。そして最終的には三角西港だけではなく、周辺地域全体を活かすためのマスタープランを立てるという結論に至りました。具体的には、7つの拠点となる場所を定め、それらの位置づけを決定しました。そして班ごとの調査結果を基に、舟運ルート・山側の散策ルート・海沿いの散策ルートを提案し、それぞれの拠点を行き来できるような提案を行いました。



これらの提案は、演習終了後三角西港内にある龍驤館にて住民に対して披露しました。学生たちにとっては、作業中は住民の生の声を聞く機会があまりなく、考えてもいなかったこと、気付いていなかった周辺地域の魅力を認識する有意義な時間となりました。



▶ 第1回現地調査



▶ 学内での模型作成風景



▶ 散策ルートの検討



▶ 住民と模型を囲んで

備考

参加者 : 男5名・女2名 計7名

URL : <http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/wildcat/2003/civil/civil005/>